

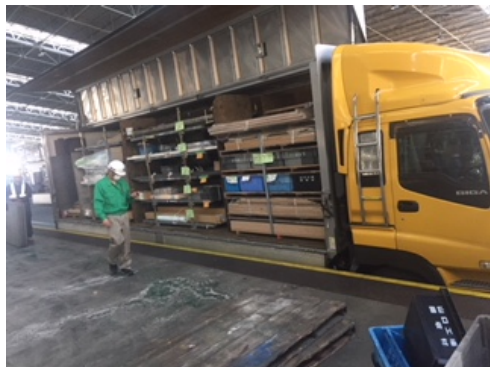
トラック輸送における長時間労働抑制 に向けたパイロット事業 中間報告

平成29年10月 5日

1. 対象集団について

発荷主

積水ハウス
山口工場



(積み込み作業)



(積み込み 荷姿)

住宅建材の輸送

センコー 山口営業所



(輸送用の車両)



(養生シート掛け作業)

着荷主

積水ハウス
九州物流センター



(九州物流センターの倉庫内)

2. 現状の実態を踏まえた問題・課題の整理

○ヒアリング調査結果を踏まえ、以下のように「出発前の積込み作業」「輸送業務」「到着後の取卸し作業」の3つのポイントから検討する。

類型	ヒアリングによる実態把握	パイロット事業の方向性
出発前の 積込み作業等	○積込み時は方面別に時間帯指定がなされているが、積み荷の準備等の原因により待機時間が発生するケースがある。 ○待機は、入門前、入門後各レーンにおいて発生。(期末、月末など繁忙時期には長時間化する傾向) ○入門は受付時間順であるため、「受付→待機→入門→積込み」の流れとなっている。(期末、月末など繁忙時期は待機時間が長時間する傾向) ○積込作業は専門の倉庫作業員が実施するため、運転者に負担はない。	○入門前の待機時間の削減 ○積込み作業時、各レーンにおける待機時間、積込作業の削減 ○養生作業の合理化による作業時間の短縮
輸送業務	○前日午後に積込み作業を実施し、翌朝または前日夜間に出発している。 ○運行においては改善基準が遵守されている。	○パイロット事業の対象としない
到着後の 取卸し作業等	○60分ごとに5台の入門が指定されているため、待機時間が発生している。 ○取卸作業は専門の倉庫作業員が実施するため、運転者に負担はない。	○取卸し作業前の待機時間の削減

○パイロット事業の方向性を検討するために、積込作業・取卸作業、バース接車ルール等について整理する。

項 目	内 容
積込み時の入門指定時間	・積込み時には、方面別に予め積込み時間帯が決定、例えば、午後1時から2時までの間に入門して積込みする、という入門指定時間帯がある
運転者による入門時の受付作業	・到着後、速やかに、タブレットにより、必要事項を入力する形式で受付を実施
積込みレーンの種類と数	・積荷は内装材(2)、外壁材(4)、鉄部材(4)、壁材(4)の4種類、計14レーン ※()内はレーン数
受付から積込みレーン接車までの待機時間発生 の原因	・トラックの入場時間が集中する時間があり、積込み可能台数の制限を超えたトラックが同時に入場すると、待機時間が発生
養生作業の現状と合理化	・平ボディの車両に積込むケースでは、シート掛けをして養生する、これまではシート掛けをドライバーの手作業で実施したが、自動シート掛け装置に車両を付けると、自動でシートを荷台に掛け、車両へのシート固縛作業はドライバーが実施
到着地における荷卸し	・荷降ろしレーンは4レーンあり1台は荷降ろし後にすぐに降ろせるように場内で待機させておく為、5台の入場となっている
到着地における指定された到着時間帯	・60分の間隔で、時間指定があり、8時の次は9時に指定
九州物流センターの納品業者	・九州物流センターへの納品業者には、山口工場以外の納品業者もあり、約6事業者の納品がある
車両の種類(車格)	・平ボディは、中型(8t)程度から大型車(10t)となり、ウイング車10tも使用

3. パイロット事業の方向性

課題①：積込み前の待機時間の削減

◆問題点

- 現状では積込み開始時間が設定されているが、当日の積込み状況により積込み開始時間が変動するケースがある。
- 積込み開始時間を指定しても、遅延する車両が多い。早朝取卸し後、他の仕事を実施するため、指定時間があっても困難であり、その結果、分散化が難しい状況にある。

◆方向性

- 方面別に積込み開始時間を連絡し、指示時間内であれば待ち時間がなく入門でき、仮に遅延した場合には待機時間が発生する運用とする方向性がある・・・台数が多く、取組みが困難

課題②：取卸し時の待機時間の削減

◆問題点

- 60分に5台の指定がなされているが、早朝から受付・待機する車両がある。

◆方向性

- 20分に2台指定に変更し、待機時間を削減。留意点として、各車両の入門の指定時間を設定し、構内作業が途切れないように順番設定する。

課題③：積込みに係る作業時間の削減

◆現状

- 養生シート掛け作業には現状30分前後の時間を要している。

◆方向性

- 養生シート掛け作業では、一部自動化装置を設置・活用し、作業時間を短縮化する。

現状分析

○発着主における待機時間の実態

- ・積込み時には入門指定時間があるが、入門前の受付から入門までの待機時間が発生
- ・積込み時の待機時間が各レーンにて発生
- ・養生作業の作業時間を削減できる可能性がある

○着荷主

- ・荷下ろし時にも、午前8時からの作業開始までに、早朝5時頃より待機時間が発生

＜参加集団＞

- 発着主：積水ハウス 山口工場
- 元請・実運送事業者 センコー
- 着荷主：積水ハウス 九州物流センター

課題の洗い出し
解決手段の検討

現状分析を踏まえ、当該集団の課題を設定し、この課題を解決する手段を検討する。

＜課題＞

- 発着主における待機時間の削減
 - ・ 前日から方面別の入門時間を詳細に連絡し、入門前の待機時間を削減する必要がある。また物流の増加に応じて作業員増員、配置見直しが必要である。
 - ・ 積込み作業に時間を要する点も待機時間発生の原因であるため、ドライバーの付帯作業の軽減（養生作業）を検討する必要がある。
- 着荷主における待機時間の削減
 - ・ 着荷主においては、午前8時に5両の時間指定をしているが、60分間に2台→2台→1台と取卸作業を実施するため、2番目以降の車両に待機時間が発生。

実証実験

設定した課題に対する解決策を実証する。

＜実験＞

- 発着主：待機時間の削減
 - ・ 入門前の待機時間の削減では、前日までに積荷準備状況を踏まえ、入門指定時間を設定し、待機時間の削減を実施
 - ・ 構内における付帯作業についても、ドライバーが取組む付帯作業を軽減するために、養生作業を機械化し、労働時間短縮
- 着荷主：待機時間の削減
 - ・ 午前8時、5両の着時間の設定から、午前8時より20分ごとに2両ずつの時間指定を実施し、待機時間を削減

実験結果検証